

知事記者会見の概要

日 時：令和7年4月3日（木） 10:00～10:37

場 所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から4件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和7年度春の交通安全県民運動の実施について
- (2) 令和7年春季火災予防キャラバン出発式について
- (3) 山形県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立キックオフ宣言について
- (4) やまがたフルーツ150周年記念フルーツフラワー・フォトコンテストの実施について

代表質問

- (1) JR米坂線の復旧について

フリー質問

- (1) 水産研究所職員の公務中の死亡について
- (2) 山形鉄道株式会社の不正送金被害に対する支援の検討状況について
- (3) 米国が発表した相互関税の本県企業に与える影響について
- (4) 代表質問に関連して
- (5) 今冬の大雪による農作物被害について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。新年度がスタートして3日目となりましたけれども、まだ早春の寒さも感じられるところでもあります。皆様にはくれぐれもご自愛いただきたいと思います。

最初に、職員の公務中の死亡について申し上げます。

昨日、水産研究所の職員が公務中に亡くなりました。非常に痛ましく残念でなりません。御遺族に対しお悔やみを申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

海での潜水作業中の事故であり、詳細については、酒田海上保安部で調査中ということですので、その結果を待っているところではありますが、早急に安全対策を徹底するよう、所管の農林水産部に指示したところでもあります。

具体的な再発防止策につきましては、原因を分析の上、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

それから、ミャンマー地震の救援金の募金について申し上げます。

ミャンマー中部を震源とするマグニチュード7.7の地震が発生し、甚大な被害が確認されております。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

日本赤十字社では、現地での救援活動を支援するための救援金の受付を4月1日から開始しておりまして、本県でも、県庁ロビー、各総合支庁・地域振興局及び県有施設の各12か所に募金箱を設置して、救援金の受付を行っております。

多くの県民の皆様からの善意のご協力をよろしくお願いいたします。

次に、桜シーズンの到来と外航クルーズ船について申し上げます。

4月に入り、一昨日には雪が舞い、朝晩はまだ肌寒い日が続いておりますが、日中はようやく春めいた暖かさを感じる季節となってきました。

これから県内でも桜の便りが間もなく届き、県内各地で桜まつりが開催され、多くの方々にぎわうシーズンになります。

全国の「さくら名所100選」にも選ばれた、南陽市の烏帽子山公園や鶴岡市の鶴岡公園をはじめ、山形市内随一の桜の名所であります霞城公園、また、しだれ桜で有名な天童市の倉津川沿いの桜並木、春を告げる魚といわれるカド、ニシンのことですが、カドの祭りのにぎわう新庄市の最上公園など、県内各地で美しい桜が咲き乱れます。さらに、夜はライトアップされた幻想的な夜桜を各地でお楽しみいただけます。

なお、各地での桜まつりの開催日時につきましては、ホームページなどでご確認いただ

ければと思います。

さらに、酒田市の日和山公園の桜が咲き始める 4 月 8 日頃には、今年度初の外航クルーズ船「シーボーン・クエスト」が酒田港に初寄港いたします。今年度、酒田港では初寄港となる 5 隻を含め、過去最多となる計 8 回の寄港が予定されており、入港の際には、地元の園児や酒田舞妓、山伏など地域を挙げたおもてなしでお出迎えをすることとしております。

今年の県内の桜の開花は、今週末頃からと予想されており、本格的な見頃はもう少し先になりそうですが、美しい桜で彩られた山形の春を、国内外の多くの皆様にお楽しみいただければと思っております、

次に、さくらんぼの凍霜害について申し上げます。

山形県にさくらんぼ等が導入されてから 150 年目、その記念すべき節目「やまがたフルーツ 150 周年」の春を迎え、さくらんぼの生育が進んでいるところです。

4 月 2 日、昨日の状況であります。(補足：ここで知事が、現在のさくらんぼの花芽の生育状況写真のフリップを提示する。) 現在は、上段の写真のように、上の方の写真見ていただくと、花芽が膨らみ、緑色に見える状態になってきております。

これから開花までは、凍霜害の危険度が高まりますので、昨日、4 月 2 日に、「さくらんぼ等果樹の凍霜害防止対策会議」を開催し、凍霜害対策の徹底を図ったところであります。

生産者の皆様にも、万全に対応を行っていただいて、より多くのさくらんぼを実らせていただきたいというふうに思っております。

☆発表事項

知事

発表が 4 点ございます。1 点目は、交通安全県民運動の実施です。

4 月 6 日から 4 月 15 日までの 10 日間、「春の交通安全県民運動」を実施いたします。

春は、交通ルールに慣れていない新入学児童や生徒、運転に不慣れな新社会人を迎え、社会全体の活動も活発になる季節です。

この時期に合わせて、「子どもを始めとする歩行者が安全に通行できる道路交通環境の確保と正しい横断方法の実践」をはじめとする 3 項目を運動の重点として掲げ、交通安全県民運動を展開いたします。

明日、4 日金曜日の午前 11 時から、県庁講堂におきまして、私も参加して、春の交通安全県民運動出発式を行います。

出発式では、園児・生徒などによる交通安全の誓いの宣言を行うほか、県庁正面玄関前におきまして、車列パレードを実施いたします。

また、4 月 10 日木曜日には、山形市立滝山小学校と山形市立第九小学校におきまして、私を含め、県及び県警察本部の幹部職員が、登校する児童の皆さんに直接、交通安全を呼

びかける該当指導を実施する予定です。

この運動は、市町村、関係機関・団体等との連携・協働のもとに展開してまいりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

2点目は、火災予防キャラバンでございます。

雪解けが進み屋外での活動が活発になってくる季節を迎えましたが、岩手県大船渡市をはじめ、全国各地で大規模な林野火災が相次いでおります。

こうした状況を踏まえ、県民の皆様には火災予防の意識を高めていただくため、春季火災予防運動期間の初日にあたる4月9日水曜日に、令和7年春季火災予防キャラバン出発式を開催いたします。県内12消防本部から消防車や広報車が集まり、一斉に広報啓発活動をスタートさせます。私も出席し、県民の皆様に対し、野外における火災防止の呼びかけを行ってまいります。

なお、出発式の中で、先日公募した「山形県林野火災予防統一標語」の表彰式も併せて行います。最優秀賞を受賞した「火事一瞬 火をつけないで 気をつけて」を合い言葉に、県内における林野火災防止の取組みを展開してまいりますので、皆様にも御協力をお願いいたします。

3点目は、孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立キックオフ宣言について申し上げます。

近年、社会環境の変化により、特にコロナ禍以降、地域における人と人との「つながり」が希薄化し、孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化していると言われております。

孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において誰にでも生じ得るものであります。そこで県では、本日、「山形県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設立し、幅広い関係者の連携・協働のもと、オール山形で社会のあらゆる分野において、孤独・孤立対策の推進を図っていくことを宣言いたします。

プラットフォームの名称は「やまがたつながり支えあいネットワーク」であります。

本年度の具体的な活動としましては、まず、6月に山形テルサにおきまして、「プラットフォーム設立キックオフイベント」を開催し、孤独・孤立対策の取組事例の発表やトークセッションなどを行う予定としております。

また、本県における世代ごとの孤独・孤立の現状を把握するため、「人々のつながりに関する基礎調査」を実施いたします。

さらに、県民への情報発信や相談窓口・支援団体が検索できる「やまがたつながりポータルサイト」を開設いたします。

なお、ネットワークには、県、各市町村および社会福祉協議会をはじめ、民間団体やNPOなど、4月1日現在で82の団体から参画いただいております。

ネットワークへの参画団体につきましては引き続き募集しておりますので、幅広い分野

の皆様から参画していただきますようよろしくお願いいたします。

最後、4点目ですが、フルーツ 150 周年記念フルーツフラワー・フォトコンテストの実施について申し上げます。

「やまがたフルーツ 150 周年」を記念して、県内で栽培されているフルーツの花を撮影した写真のコンテスト「フルーツフラワー・フォトコンテスト」を実施いたします。コンテストを通して、この春の時期に、フルーツの花の美しさと、その花がある「山形の春の景色」を知っていただき、やまがたフルーツの新たな魅力を発信していきたいと考えております。

応募期間は、明日 4 月 4 日から 5 月 31 日までとなります。多くの皆様からの応募をお待ちしております。

なお、入賞者には、「やまがた紅王」や「紅秀峰」、「山形フルーツミックスジュース」の豪華賞品を贈呈いたします。詳しくは、公式 Instagram をご覧になってください。

具体的にどういう花が対象になるかというと、「さくらんぼ」ですとか、「桃」「スモモ」「西洋ナシ」「日本なし」「りんご」「ブドウ」の他、「いちご」や「メロン」、「スイカ」など、フルーツとして広く認知されているものを対象とするということですので、皆さん、奮ってご応募ください。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の共同通信の中村です。よろしくお願いします。

JR 米坂線についてお伺いします。先月 26 日に復旧検討会議があったかと思いますが、そこで JR 側から、地元負担の規模感として第三セクターとバス転換と、それから上下分離と、それぞれ試算が示されました。JR 側は第三セクターを導入した場合の地元負担額が年平均で 5 億 2 千万円から 18 億 8 千万円に上るとの試算を示しました。その試算額への受け止めと、さらに、これを踏まえた上で、今後、どのような形で復旧を目指していくのか、知事のお考えを教えてください。

知事

はい。では、お答え申し上げます。

先月、3 月 26 日、第 5 回 J R 米坂線復旧検討会議が開催されました。本県からはみらい企画創造部部長が出席をいたしました。

これまで JR 東日本からは、復旧後の運営パターンとして、一つには JR 運営、二つには上下分離、三つには地域が運営する鉄道、そして四つ目がバス転換、これら四つが示されてきて、昨年 11 月の第 4 回会議では、JR 東日本から、上下分離した場合の自治体側の負担額の試算などが示されております。

今回の会議では、JR 東日本から、地域が運営する鉄道とバス転換の場合の地域負担の規模感の目安が提示され、「こうした資料も参考にしながら、地域の課題として米坂線のあり方についての議論を進めてもらいたい」との表明があったところであります。

今後につきまして、山形県としましては、今年 1 月に置賜地域の市町で首長会議を開催し、鉄道での復旧を第一の目標として、上下分離や三セクも含めて具体的な検討を行っていくこととしておりますので、今回の試算も参考にしながら、引き続き置賜地域の市町と話し合いを進めてまいりたいと考えております。

また、沿線地域が鉄道復旧に向けた熱意を示していくことが重要であります。引き続き新潟県や沿線市町村と一緒にあって「米坂線復活絆まつり」を開催するとともに、地域の皆さんがしっかりと米坂線を利用するなど、地域における米坂線の利用拡大や復旧に向けた機運醸成に、より一層取り組んでまいります。

米坂線は、地域住民の日々の暮らしを支える、なくてはならない公共交通機関であります。本県と新潟県とをつなぐ横軸として、全国的な鉄道ネットワークの一翼を担う重要な路線であります。そうした観点に立ちながら、JR 東日本、新潟県や沿線市町村と話し合いを重ね、着実な進展が図られるように今後とも取り組んでまいる所存であります。

記者

ありがとうございます。今後も話し合いを着実に進めていくっていうのは分かったんですけども、示された金額への受け止めみたいなものっていうのはありますか。

知事

はい。そうですね、上下分離ということと、いわゆる第三セクター移管というところ、幅が結構あるんですけども、大体の試算が示されたということで、やはり沿線市町との話し合いもですね、具体的にどういうふうに考えるかということ、前に進めていけるのではないかというふうに思っております。結構かかるものだなというふうには思っております。

記者

以前、バス転換は考えていないという発言ありましたが、これについては特に変わりないっていうことでよろしいですか。

知事

はい。当初からやっぱり鉄道での復旧・復興ということを申し上げてきました。バス転換という試算も示されたわけなんですけど、そこは目指していないということであります。やはり沿線自治体の皆さんの考え方を、私は最大限尊重するのが大事だな、と思っております。

そして、バス転換にかかる費用と地元負担というようなことで示されましたけど、バス転換っていうのはそもそもですね、JRさんの責任においてなされるものではないかというふうには思っています。

☆フリー質問

記者

NHKの永田です。

冒頭の説明にありました研究員の死亡事故なんですけれども、昨日の段階ではお一人で潜られていたというところで、研究所からも説明を受けたんですが、内部の規定では2人で潜ることが原則としてあったというふうにも聞いているんですけれども、そこはいかがでしょうか。

知事

はい。潜水作業に従事する職員の安全を期するため、水産研究所の内規では、潜水作業は潜水者2人1組で行うと定めております。

今回の潜水作業では、沿岸に監視する職員を1名配置して、海中では1人で作業を行っておりました。これは内規とは異なる対応を行っていたということであり、詳細については確認中ではありますが、これから事案を検証した上で、作業手順の見直しを含め、安全対策に万全を期してまいりたいと考えているところです。

記者

男性職員がどのような研究に従事していたのなどは分かっていますでしょうか。

知事

はい。今朝、登庁してから研究内容をお聞きしましたがけれども、その詳細をちょっと持って来なかったのが、大変申し訳ありませんけれども、後ほど農林水産部の方から説明をさせていただきます。

記者

水産研究所の方で、このように潜水中の事故というものはこれまでに起きたことはあったのでしょうか。

知事

これまで公務中の事故というのは、私が就任してからはちょっとお聞きしてないところであります。まして、死亡ということにいたってはちょっと本当に初めてではないかというふうに思っておりますが、确实なところはやはり担当のほうからお答え申し上げた方が

良いかなと思います。

司会者（広報広聴推進課長）

この件、終了しましたら担当部のほうでお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。

記者

分かりました。あらためて知事のほうから、研究のために潜水されていた方へお言葉があればお願いします。

知事

はい。本当に、水産研究所の職員が公務中に亡くなったということで、大変残念でありますし、ご遺族の方に申し訳ないという気持ちであります。本当にお悔やみを申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

こういったことが起きないように、やはり安全対策、これからですね、検証しながらしっかりと対策をしていきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。全く別件なんですけれども、フィッシング詐欺が横行していて、山形鉄道（株式会社）さんとかが被害に遭ったと思うんですけれども、県としてもフォローしていきたいという発言、この前あったんですが、その後、どのような進展がありましたでしょうか。

知事

はい、そうですね。3月10日に県も出資する山形鉄道におきまして、山形銀行を名乗る電話によるインターネットバンキングの不正送金被害が発生しました。1億828万円の被害を受けた状況となっております。

当面の資金不足に対応するため、県と2市2町で拠出する「長井市山形鉄道運営助成基金」から5千万円を無利子融資することで各自治体の首長さんたちから承諾を受け、3月27日に貸付けを実施しております。

山形鉄道、県及び沿線2市2町で連携し、利用拡大や旅行商品及びフラワー長井線グッズの販売等に努めるなど、営業収入の増額を目指していくこととしております。

山形鉄道は特に高校生の通学など地域住民にとって不可欠な路線でありますので、運行に支障がないよう、県としても一緒になって考えてまいりたいと思っております。

記者

おはようございます。山形新聞の稲村です。

昨日、今日の動きの中で、アメリカのトランプ大統領の追加関税、これの知事の所感と
いいですか受け止めをお聞きしたくてですね、山形県内でも自動車関連産業もだいぶ影響
を受ける、先行きが不透明だという困惑が広がっているところですが、これについて知事
のお考えと、県としての対応があるのであればお聞きしたいと思います。

知事

はい。私も大変心配をしておりました。本日、アメリカのトランプ大統領が日本を含む
複数の国・地域を対象に、相互関税を導入することを発表したと聞いております。

県内の貿易状況を調査した山形県貿易実態調査の令和5年の結果によりますと、米国は中
国に次いで2番目に多い輸出先となっております。精密、計測機器及びその部品や自動車部
品等などを中心に、輸出額は約212億円となっております。

相互関税の詳細につきましては現在情報を収集中ではありますが、日本に対しては24%
の関税を導入するとされており、米国への輸出について県内の輸出企業の業績に影響が及
ぶことも懸念されますので、今後の動向や政府の対応を注視してまいりたいというふうに
考えております。

本当に関税を課すということはですね、ずっと言われておりましたので、大変私自身も
県内の事業者さんにどういう影響が及ぶかなというふうに心配をしているところでありま
す。

もう世界中が振り回されているというような気がしてならないのでありまして、本県に
も影響が及ぶだろうというふうに思っております。政府の動向を注視しながらではありま
すけれども、県内の自動車関連企業に対して個別に聞き取りなども行いまして、これから
どういった対策が必要なのかを検討していきたいというふうに思っております。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

米坂線についてお伺いしたいんですけれども、先ほど知事がおっしゃっていたかと思う
のですが、米坂線を上下分離した場合と第三セクターに移管した場合の年間の金額という
ものが4回、5回の会議で示されたかと思うんですけれども、その額について受け止めとい
うことで「結構かかるな」というふうにおっしゃっていたかと思うんですが、それはやは
り負担が大きいという認識でよろしかったでしょうか。

知事

はい、そうですね、負担が大変大きいというふうには受け止めております。ただ、本当
に公共交通機関でありますのでね、住民の皆さんにとっては本当に大切な交通機関であり

ますし、また、横軸ということで2つの県をまたいでいる横軸路線でもあって、全国の鉄道ネットワークの一翼を担っているそういう重要な路線でもあると思っていますので、やはり鉄路での復旧が最も望ましいというふうに私は今でも思っております。

ただ、その負担額というのはですね、示されましたけれども、これからやはり新潟県、山形県、そして沿線市町村の皆さんと話し合いをしながら進めていくわけなのでありますけれども、同時並行して、やはり公共交通機関でありますから、いずれのパターンを選択するにしてもですね、政府にも公共交通機関という視点を持ってしっかりサポートしてもらえそうな、そういうことをきちんと要望していこうというふうに思っております。

記者

国への支援を要望していくという、そういう方針ということですかね、つまり。

知事

そうですね。

記者

はい、ありがとうございます。

また、関連でもう1点だったんですけれども、この「(米坂線復活) 絆まつり」を今年もやるということで、昨年は8月くらいに小国駅のあたりでやられたかと思うのですが、今年はどこでどのくらいやるとか、何かそういうプランみたいなのは、現在何か考えていらっしゃることはございますか。

知事

内々には聞いているのですけど、すみません、検討中でございます。

記者

読売新聞の仲條です。

引続き関連で、米坂線の関係なんですけれども、上下分離と三セク移管という、鉄路であるならばというので2パターン示されてきた中で、知事の中のお考えとしてはどちらのほうより望ましいというようなお考えはおありなんでしょうか。

知事

正直言って、鉄路ということありますので、どっちのほう望ましいのかというのは、現段階では決めかねるところであります。やはりさまざまな視点を持って、また考えを持って、やはり沿線自治体、市町村の皆さんのお考えをしっかりと聞きながら進めていきたいというふうに思っています。

記者

ごめんなさい、同じお答えになってしまうかもしれないんですけども、この米坂線の議論は平行線、なかなか主張がかみ合っていないなという印象を長い間受けていたんですけども、ようやく同じ土俵で議論が可能になったのかなというような印象を受けます。

ただ、やはりですね、今度の8月で節目を迎えるわけですけども、復旧までの時間が長引けば長引くほど沿線の住民の方々の生活スタイルも、代行バスに慣れてしまったりですか、そのような懸念があるかと思います。

今年度の間にどのあたりまで議論を進めたいですとか、知事の中のスケジュール感についてはどのようにお考えになっていらっしゃいますでしょうか。

知事

そうですね、今年の8月で被災から丸3年が経過するということになります。できるだけ早く復旧に向けた道筋をつけたいという思いは持っております。

ですが、山形県だけで決められることはありません。山形県と新潟県、両方にまたがっておりますし、沿線市町村が3市3町1村ございます。関係する自治体は多くあるということでもあります。ただ、3年経つというのもひとつのね、ポイントではあるかなとは思っていますので、そのスケジュール感を持って進めていきたいと思いますというようなことはやはり申し上げていかなければいけないのかなというふうにも思っています。

ただ、今記者さんがおっしゃったことで、その住民の皆さんのライフスタイルがどんどんね、変わっていくというようなところは大変懸念されると言いますか、諦めてしまうと実現しないと思います。ですから、どのくらい熱心に、やはり「ここを復活したいんだ」というその熱意が最も大事だと思っています。やはりこの沿線にとってこの鉄道が絶対必要なんだというその熱意をですね、示していくことが大事だと思っていますので、復活絆まつりをはじめ、どういったことができるのかというようなことをですね、やはり皆さんが本当に主体的に考えてもらって、行動してもらおうということが大事だと思っていますので、なお一層一緒になって取り組んでいくことが大事だなというふうに思っています。

記者

YBCの穂積と申します。よろしくお願いします。

話が変わってしまうんですけども、先ほど凍霜害の話もあったと思うのですが、その前に今年の冬、大雪でだいぶ枝折れがあつたりとか、農作物への被害というのが結構大きかったと思うんですけども、大体今の段階でどれくらいの大きさだったか、被害額とかそういったものがもし出ていたら教えていただきたいなと思います。

知事

はい。ようやく雪もですね、解けてきております。ただ、山形市内は雪が本当に見当た

らなくなってきましたけど、昨日私は新庄に行きまして、尾花沢とかですね、まだ畑や田んぼに雪がありましたし、おそらく置賜もまだあるのではないかと。今日の午後置賜に行くんですけども、まだ雪があるんじゃないかと思います。調査継続中だということで、担当部のほうからどのくらいの被害額だったのかというようなことは、まだ私のところには上がってきておりません。おそらく市町村と連携して、それをしっかりと調査中なんだというふうに思っています。